



とも一緒に写真を撮れます。

カッパドキアはアナトリア高原の中央部に広がる大奇岩地帯。気の遠くなるような年月がアナトリアの大地に造り上げた大自然の神秘なる奇景は、トルコ観光最大のハイライト。林立するキノコ状の岩に代表される奇岩の不思議な景観、地下何十mにわたり何層にも掘り下げられた地下都市、修道士が過酷な修行をした洞窟の教会、奇岩の中に残された膨大なキリスト教壁画など、見どころがいっぱい。

コンヤはイスラム神秘主義の一派メヴレヴィー教団の発祥地として知られており、ホテルのロビーには、円錐形の帽子をかぶり、右腕を上、左腕を下に向けて、スカートを広げるようにクルクルと回るメヴレヴィー教団の「セマー」と呼ばれるメヴラーナの旋舞の人形が飾られています。もし12月中旬に訪れるのなら旋舞を観ることができます。



キノコ状の岩



奇岩地帯の地下へと延びる岩窟住居



セマーと呼ばれるメヴラーナの旋舞の人形



青空に映える白い石灰棚



壮麗なケルスス図書館



古代の売春宿の広告

火山の多いトルコは温泉天国。パムッカレはトルコ語で「綿の城」という意味をもつトルコ有数の温泉保養地です。石灰棚は台地上部から流れ出る石灰部分を含む湯が、長い時を経て結晶し、台地全体を覆ったもので、麓から見上げると、雪山のようでもあります。ぼつたりと幾重にも重なりあった石灰棚が段々畑のように広がり、ブルーの湯をたたえている姿は幻想的です。私が訪れた時には、水着になって石灰棚のところどころにある温泉水がたまった池で湯につかったりして楽しみました。また、すぐ近くのパムッカレ・テルマムは、温水プールの底に遺跡が沈んでおり、そこで泳ぐこともできました。しかしながら、その後、珍しい石灰棚は世界遺産に登録され、景観保護の観点から石灰棚への自由な進入は禁止されたそうです。現在では展望台と遊歩道から眺めるだけとなってしまったようですが、白とブルーのコントラストが美しい石灰棚は、それでも十分に堪能できることでしょう。

続いては、遺跡と海と太陽がたっぷりのエフェス、イズミル、ベルガマ、トロイ、チャナッカレの“エーゲ海沿岸”を。

エフェス遺跡はエーゲ海岸有数の規模を誇る古代都市遺跡。アルカディアン通り、マーブル通り、クレテス通り沿いには競技場、大劇場、ケルスス図書館、娼館、市公会堂、オデオンなどの建造物が建ち並んでいます。マーブル通りを歩いて行くと、敷石に刻まれた娼館の広告を見ることができます。この古代広告の意味は、右側の女性像が「女の子が待っている」、その下のお金が「お金を持っておいで」、左上のハートが「心を込めてサービス」といわれていますが、ハートの下の足については「左側にある」「この足より小さい足の方は売春宿は利用できない」など、いろいろな説が飛び交っています。

エーゲ海地方最大の工業貿易都市イズミルは、トルコ第3の都市。バザールは地元の買い物客や観光客でいつもにぎわっており、海沿いのアタ



扇形に広がる急斜面の劇場

テュルク通りにはサングラスをかけたお姉さん達が闊歩しています。

ベルガマの町は小さいですが、ベルガモン王国の都の跡。アレキサンダー大王亡き後、大王の遺産を手にしたリシマコスの部下であったフィタイロスによって築かれたベルガモン王国は、典型的なヘレニズム都市として繁栄が長く続きました。アクロポリスやアスクレピオンに遺跡が散らばっていますが、アクロポリスの扇形に広がる急斜面の劇場は見逃せません。

トロイ観光の起点として多くの観光客が訪れるチャナッカレは、ヨーロッパとアジアを隔てるダーダネルス海峡の中心都市ですが、かつての要塞跡と博物館以外にさして見どころはありません。

トロイの地に集落ができ始めたのは紀元前3000年頃。初期青銅器文明の時代からトロイの歴史は始まり、その後、栄えては滅びるといふ歴史を繰り返し、トロイは全部で9層にわたる都市遺跡を形成しています。トロイ遺跡は、「トロイの木馬」の伝説を信じたドイツのシュリーマンが自費で発掘し続けて1873年にヒサルルクの丘を発見したのをきっかけに調査されるようになり、現在もチュービンゲン大学による発掘調査が続いています。遺跡の周囲を囲む壁は、第6市(紀元前1800~1300年頃)の城壁で、第8市(紀元前700年頃)のアテネ神殿までは、第6市の塔や城門、メガロン(部屋)が続きます。アテネ神殿の後ろには第1市(紀元前3000~2500年頃)と第2市(紀元前2500~2200年



伝説にちなんで復元されたトロイの木馬

頃)のメガロン、城壁、城門があり、第6市の城壁外へ抜けると、第9市(ローマ時代)の聖域や劇場跡などが見られます。昨年、新宿歌舞伎町に映画「トロイ」の公開にちなんで映画で使用された「トロイの木馬」が宣伝用に数ヶ月間飾られていました。映画の木馬とは異なりますが、トロイ遺跡の入口にもトロイ戦争(紀元前1200年頃；第6市)の「トロイの木馬」にちなみ、観光用に建設された巨大な木馬が建っています。



ビザンツ建築の最高傑作と評されるアヤソフィア



ブルーモスクの名で親しまれる  
スルタンアフメット・ジャミイ

最後は、ヨーロッパとアジアの架け橋“イスタンブール”を。

イスタンブールは長さ 30km のボスポラス海峡によってヨーロッパとアジアに分かれており、ボスポラス大橋とファティフ・メフメット大橋が文字どおり架け橋となっています。

ヨーロッパ側にある金角湾とマルマラ海、テオドシウスの城壁で囲まれた地域が旧市街で、金角湾を挟んだ対岸が新市街です。旧市街には、ビザンツ 1000 年、オスマン朝 700 年の首都となったイスタンブールの代表的な建造物が集中しています。ギリシア正教の総本山アヤソフィア、トプカプ宮殿、ブルーモスクの名で親しまれるスルタンアフメット・ジャミイ、スュレイマニエ・ジャミイ、地下宮殿など、見どころは目白押し。また、迷路のようなグランドバザールもお見逃しなく。一方、新市街はビジネスの中心地で、外国資本の高級ホテルがあり、おしゃれなショッピングタウンとしても人気があります。新市街で一番の見どころはドルマバフチェ宮殿です。

おしまいにイスタンブールの歩き方や魅力について簡単に紹介します。イスタンブールには地下鉄も市内バスもありますが、路面電車トラムヴァイは利用価値大。旧市街のスルタンアフメット地区に見どころが比較的集中しており、ここだけ回るのならば徒歩でも OK ですが、この街のいろいろな魅力を探すには、積極的にト

ラムヴァイを使うことをお勧めします。イスタンブールの食事情は、肉料理のケバブや魚介類、ピラウ(トルコのピラフ)やピザ(トルコのピザ)など、どこでもおいしいものが指を指せば食べられます。また、チャイはトルコの生活に欠かせない飲み物で、人々はチャイを飲みながら談笑しています。町のいたる所にはチャイ屋(チャイジュ)があり、絨毯屋でも、このチャイジュからチャイが運ばれてきます。夜は、踊り好きなトルコの人たちとベリーダンスで熱狂。ベリーダンスは、古代エジプト時代より中近東各



ベリーダンスのショー

地で娯楽として親しまれていましたが、イスラムの浸透とともに、女性の露出度が多いダンス

は敬遠されるようになりました。そんななかで、戒律のあまり厳しくないトルコは、ベリーダンスの中心的存在になっています。トルコでは、おへそを出したなまめかしい服装で妖艶な体の動きをするベリーダンスは決して特殊なものではなく、もちろんきわめて健全なものです。ベリーダンスのショーの中で「ハディ、ハディ」と言われたら、躊躇せずに舞台上に上がり、見よう見真似で踊って、みんなで一緒に楽しむのがトルコ流の遊び方です。そして、旅の疲れはハمامで吹き飛ばします。トルコにはハمامと呼ばれる蒸し風呂式の共同浴場がたくさんあり、イスタンブールには観光客向けのハمامが数軒あります。ほのかに温かい大理石の上で至福のアカすりとマッサージを。

トルコ各地に点在する美しく、壮麗な遺跡や建築物に悠久の歴史を感じ、母なる大地、小アジアの胸に抱かれるトルコの旅を、是非お楽しみください。



ハمامと呼ばれる蒸し風呂式の共同浴場